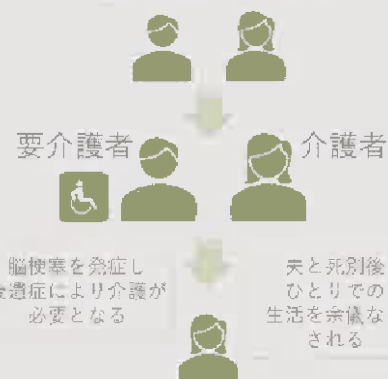


01. 誰が住む？

高齢夫婦世帯



01-1.社会・入居者の背景

- ・ 高齢者夫婦世帯の増加
- ・ 介護する側も高齢になる「老老介護」の恐れ
- ・ 高齢者の賃貸住宅契約のハードル高
- ・ 住み慣れた住まい・地域で最期まで過ごしたいという思い
- ・ 高齢者向け住宅の選択肢が限られてしまっている

01-2.不動産・オーナー側の背景

- ・ 老朽化した空き家の増加
- ・ 高齢者に配慮した住宅の需要増加

02. 住まいの工夫

02-1.「老老介護」を想定した計画

- ・ 夫の居室・トイレ・浴室を直線で移動でき、自力移動の負担軽減と、介護動線の短縮を図る
- ・ 妻と夫の居室を対角に配置し、個々の時間と空間を確保することで「介護疲れ」を予防
- ・ 車いすや少ない力でも開閉しやすい引き戸を採用
- ・ ベッド周りや浴室に広い空間を確保し介護をしやすいとする

02-2.ひとり暮らしを想定した計画

- ・ 居室・LDK・水回りの生活空間を南側にまとめて配置
- ・ 居室とLDKを隔てる引き戸を取り外し、リビングの拡張も行うことができる

02-3. オーナー側のメリット

- ・ 高齢者が長期間住み続けられることで短期間での退去や住み替えを防ぐ
- ・ 高齢者向けの住宅に改修することで需要に応える
- ・ 既存の戸建て住宅を改修し、住宅の資産価値を向上することで空き家対策となる
- ・ 入居者の安全史を高め、不慮の事故を防ぐ

04. 配置計画

